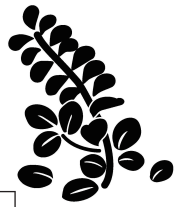


TSK

仙台ダルク News Letter
Drug Addiction Rehabilitation Center

2024年 9月号



編集く仙台市指定グループホーム・仙台ダルクチェルキオ作業所く仙台ダルク
〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26 URL <http://sendai-darc.org/>
TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340 Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

～第27回仙台ダルクフォーラムを終えて～

今日の仙台はウインドブレーカーがなければ過ごせないほどの涼しさになっている。一週間前まではアロハシャツを着ていたのに…これから一気に東北は秋から冬に向かってゆく。ついではあるが、仙台晩翠通りの銀杏並木から銀杏の実も落ちていた。

さて、去る8月31日仙台ダルクフォーラム「現在はギフト～過去はヒストリー～未来はミステリー」を行った。仙台市福祉プラザのふれあいホールは200名を超える参加者の熱気であふれていた。現在、関係が綿密になった仙台保護観察所所長の丁寧なお話。そして仲間3人の正直な体験談。その中でも、ある仲間の話の中で「使ってるときは生きてるんだか死んでるんだか分からないでいた」というメッセージに私自身も「俺もそうだった」と感じたいした。そして、心強い仙台ダルク応援団であるカトリック弘前教会の小松神父様のあったか～い話。正直言うと深くかかわっているの、いろいろな課題とかを突き付けられると思っていたので（笑）…

そして午後は全員が参加できるヨガを日頃プログラムでお世話になっている先生たちに行っていた。みんなニコニコした様子だった。そして、今回は仙台ダルクの設立者であり日本ダルクの理事長にもなった岩井さんからダルクの話、そしてこれまでの数えきれないほどの家族の話を熱っぽく話していただいた。アンケートの感想でも岩井さんの講演が熱かったとたくさんの回答があった（笑）

いつもの仙台ダルクのフォーラムだった。そして、今回は初めて私は準備に関わらず、スタッフをはじめとする仲間たちをお願いしてみた。「看板が曲がってついてるんじゃないか？」「マイクの線が抜けてるんじゃないか？」あれこれ考えたが、そんな心配は無用で、当日の朝行ったときに見事な会場になっていた。これはみんなが頑張った証拠だ。またこれで私の役割が一つ減ってしまった…

むちゃくちゃ熱い中、美味しい珈琲を淹れてくれた珈巢多夢の人たち、販売に来てくれた各事業所の皆さん、たくさんのお花を贈ってくれた全国のダルクのみんな、とにかく参加してくれた、そしてこのフォーラムに携わってくれた方々に心より感謝申し上げたい。また、来年もやるぞ！！

仙台ダルク 飯室 勉

コンベンション感想 by トモ

「コンベンションに参加して」

私は、依存症のトモと申します。私は、覚醒剤の依存症で、50年ぐらい覚醒剤の使用を続け、その間、離婚や体の具合が悪くなったりしました。刑務所経験を2回程し、2回目の服役の時、肝臓がんが見つかり倒れました。それも、長年覚醒剤をやってきた後遺症でした。刑務所を出てから、ダルクにつながりました。毎日ミーティングをし、私にはすごく居心地のいい所になりました。私は、今までこのように落ち着いた生活を送ったことがありませんでした。

NA というのがありまして夜にいろんな会場に行くのですが、7月に名古屋のNA コンベンションに行き、依存者の多さにびっくりしました。そこでは、みんなの体験談やカウントダウンなどいろんな行事が3日間にわたり行われました。ものすごく感動する話や、カウントダウンなどは、ものすごく心を揺さぶられました、目頭が熱くなりました。名古屋に行き、とても良かったなと思います。

みんなと泊まり楽しい時間を過ごし、名古屋で食べたきしめんがとてもおいしく心に残りました。また機会があればNA コンベンションやダルクのフォーラムにぜひ出席をし、改めて自分の身の振り方や、この先のことを見つめて行きたいと思います。

コンベンション感想 by マメシバ

「NA コンベンション in 名古屋」

薬物依存症のマメシバと申します。先日に行われた名古屋での NA コンベンションは日常生活ではなかなか味わえない盛り上がりっぷりで楽しませていただきました。

仙台～名古屋間は車移動だと約 700 キロですので、前日や出発前に行くのが少し億劫に感じはしましたが仲間達と社内で、しゃべっているうちに少しずつテンションが上り名古屋に到着し、大都会名古屋の街を見た時、色々な仲間達との再会が楽しみになっていました。

NA コンベンションではプログラムもさる事ながら、合間の時間で久しぶりに会う仲間とのフェローシップが素晴らしい瞬間でした。2012年に行われた仙台での NA コンベンションや、どこかの会場で会った事のある仲間、顔は覚えてるけど名前は思い出せない仲間、とにかくハグ、ハグ、シェイクハンドで NA の良さの一つが、みんなフレンドリーでフェローシップに積極的なので数十名との仲間との再会で元気をもらいました。

プログラムでは仙台の仲間 2 名がメッセージをする事になっており、応援しながら共に時間を共有したりスピーカーでは、オールドタイマーの方が個人の体験談や NA つながってからのいきさつ等を話してください。今回の名古屋コンベンションが開催されるまでの歴史と言いましょうか、そのようなものを感じる事が出来ました。

コンベンション感想 by マメシバ

そして何と言っても一番の盛り上がりを見せたのはプログラムのラストのカウントダウンで、それぞれの仲間がみんなでクリーンタイムをお祝いしました。クリーンタイムが長い仲間も短い仲間も、今日この瞬間クリーンで薬物を使っていない事を喜ぼうよと、みんな大きな声をあげたり、叫んだり、拳をつき上げたりしてアディクトの同志が共鳴しました。

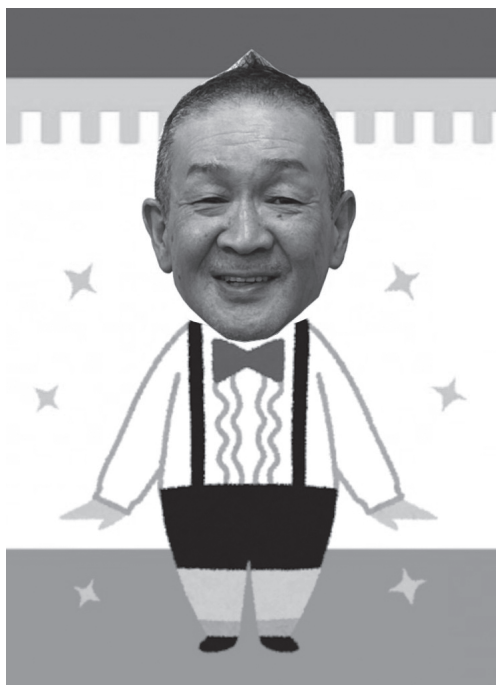
日常生活を生活しているとクリーンで生活している事が当たり前かのような錯覚になりやすいですが、一人ではクリーンを続ける事はできないので仲間へ感謝です。

Drug Addiction Rehabilitation Center

DANRC

今後の予定 2024年11月まで

- 9月28日(土)・・・山形家族会
- 9月29日(日)・・・第24回せんだい・みやぎアクションフォーラム
- 10月3日(火)・・・石巻高等学校 講演
- 10月3日(火)・・・宮城県精神保健福祉センターNICE スーパーバイザー
- 10月5日(土)・・・埼玉ダルク20周年感謝の集い
- 10月7日(月)・・・釜石保護司会来所見学
- 10月8日(火)・・・塩釜保健所アルコール薬物相談
- 10月16日(水)・・・宮城刑務所薬物依存離脱指導
- 10月19日20日(土日)・・・NA東北エリアギャザリングin松島
- 10月21日～24日(月～木)・・・沖縄ダルク30周年記念フォーラム
- 10月22日(火)・・・東北少年院メッセージ
- 10月23日(水)・・・宮城刑務所薬物依存離脱指導
- 10月25日(金)・・・仙台保護観察所ネットワーク会議
- 10月27日～29日(日～火)・・・JCCA広島会議
- 10月29日(火)・・・石巻市立青葉中学校 講演
- 10月30日(水)・・・宮城刑務所薬物依存離脱指導
- 11月2日(土)・・・京都ダルクフォーラム
- 11月2日(土)・・・相模原ダルク10周年記念フォーラム



せんだい家族会のご案内

同じ問題を抱える家族の方へ、あなた自身の回復と成長のために
家族会ミーティングに参加してみませんか。

<p>2024年10月6日【日】 10:00～15:00 仙台市民活動サポートセンター 仙台市青葉区一番町4-1-3 会費：2000円 東北会病院理事長 石川 達 先生</p>	<p>2022年10月15日【火】 18:00～19:30 仙台ダルク 仙台市青葉区上杉2-1-26 会費：200円</p>
<p>2024年11月3日【日】 10:00～15:00 仙台市民活動サポートセンター 仙台市青葉区一番町4-1-3 会費：2000円 茨城ダルク代表 岩井 喜代仁 氏</p>	<p>2022年11月19日【火】 18:00～19:30 仙台ダルク 仙台市青葉区上杉2-1-26 会費：200円</p>



献金・献品を賜りました皆様方へ心より感謝申し上げます。
恐れ入りますが敬称を省略いたします。(2024年6月～9月分)
※ニューズレター発送簡略化の為、郵便振替用紙は全員に同封いたします。
尚、匿名希望の方は振込用紙にお書き添えください。



佐藤智子 長嶋治夫 香山雪彦 連記成史 サワダシュウジ 水田淳子
会長澤口政志 花田一馬 淀川芳子 佐藤和枝 松山繁夫 菊地智美
千石さよ子 伊藤隆俊 新城祐子 一場順子 石黒亨 くすりのおおくま
エースユナイテッド(株) 本覚寺 その他匿名の皆様方

編集後記

ようやく秋めいてきて呼吸が楽になった。一人で虫の声を聞いていると、昔はただ寂しかったのが、今は慰められる。家庭があれば幸せだろうけれども、こども虫の声に気づけないだろう。不幸だろうか、いや。

ようやく自分をそんなに悪くない人間だと思える程度に面の皮が厚くなった。しかしまあ、積年の行動様式はそうそう変えられるものではなく、相変わらず一人でいることが多い。そんなとき古瀬戸の小壺や古唐津の陶片などに安らぎを見出している。胸の支えがとれてスーッと心が軽くなる。これらの幾星霜に比べれば、目先の煩惱などなんと些末なことか。古くて美しいものを探していると、ごく稀にこの心が軽くなることがある。それが私の求めるもの。俗物ゆえ真贋はそれは気になる。しかし縁あったとき、そんな次元はどうでもよくなる。

三つ子の魂百まで。車窓からの景色に見入ったり、寺社などの古めかしいものに安心感を覚えるような子どもだった。これでは会話が合わないわけだ。タモリ電車クラブのように、趣味関心を共有できる仲間がいればそれは幸せだろうと思う。あれは多少演出が入っているだろうが。程よい距離感と似通った興味関心。憧れるね。だから、人間関係を全く否定するわけではないのだが、どうも要請されてきた関係性は異質だ。詰まるところ、要請されたのは通俗的な处世術の類だったのだろう。これはいまだにどうやってもしんどい。それこそ逃げたくなる。彼我を見分ける嗅覚には敏感だと自覚している。後者のそれはべとついている。

ステータスを得るための勉強ではなくて、興味関心を深める勉強ならばいくらでもできたのに。せつかく生かされているのであれば、時にべとつくことは避けられないにしても、できるだけさらさらと過ごしたい。そこに人気はいらない。



編集者 仙台ダルク

〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26

TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340

URL <http://sendai-darc.org/>

Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会

〒980-0874 仙台市青葉区角五郎 1-12-6

頒価 100円